

第48回Kozoom28 「夏越の頃を迎えて」

清水健二

水無月も半ばを過ぎると今年も半分過ぎたかと思う。我が家から歩いて200mほどの所に八尾神社がある。毎年6月に入ると、境内に「夏越し(なごし)の大祓(おおはらえ)」の幟が立つ。



八尾神社年間行事

6月30日に祭祀がとり行なわれ夏の風物詩になっている。1年間の身にたまった穢れを落とし、無病息災の祈願をする神事である。「茅の輪(ちのわ)くぐり」や

「人形(ひとがた)の焼き上げ」など厄払いと身の清めを行い、心気一転の節目とする日である。身代わりに人形の紙に名前を書いて焼いてもらう素朴な行事で、古代から各地で行われてきた継承祭祀である。

当地八尾神社について以前にもエッセイに記しているが、中河内にあたる八尾は古代物部氏の支配地で、矢作りをしていた事から、矢が八になって八尾となったと言う。市内



紙の人形



夏越の祭祀

には「矢作(やはぎ)神社」も存在している。また八尾神社には物部氏の一族で来栖(くるす)氏の砦があつて、境内に「矢尾城址」の石碑もある。とにかくこの地に住む人々が氏子として、長年に亘り守って来て、祭事にはこぞって行事に参加し継承してきたのである。ところが近年高齢化と共に地の多くの高齢者達は他界し、古い家は新しい家に建て変わったり、神社の周辺で賑わっていた商店街も廃れ、店主や地元の人達の祭事の協力も減少するばかりとなった。いたる所に大きな集合マンションが建ち、新しく入居する人も、雇われ管理者も神社との縁もなく関わりも無くなって来ている。

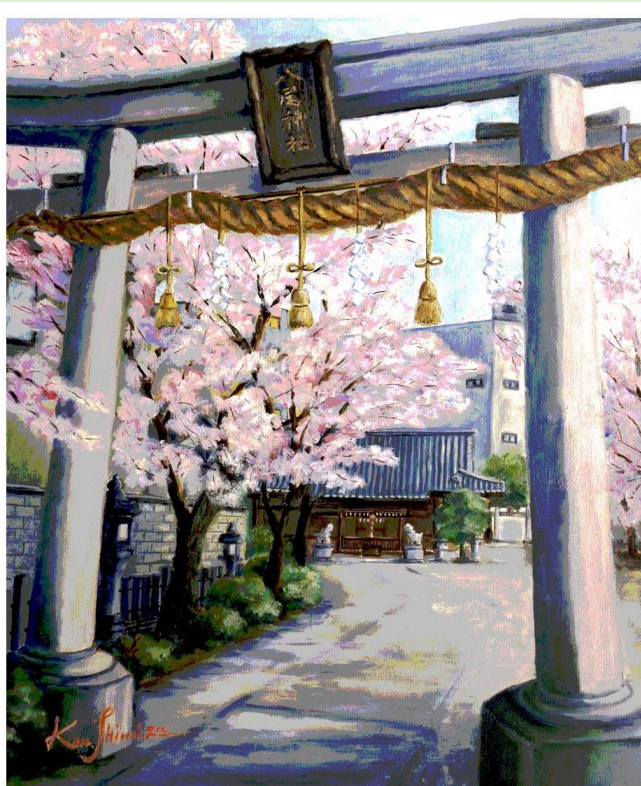


矢尾城址石碑

儀委員長になって葬儀に出席するのが役目だった。徐々に地域の環境が変化し、10年ほど前から、町会に入会する家が急速に減少し始めた。新しく建設されたマンションの住人達は全く地域の人との接触はしなくなりだしたのも、核家族化や少子化が原因で、親から独立して地域との関わりも薄れ、そこへコロナ禍の影響で町会の活動も全く停止状態になった。今や町会で亡くなっても亡くなったことさえ判らないなど、現在では町会の存亡が危ぶまれている状況である。

毎年行われる神社の祭事も地域住民や町会の協力が希薄になり、神社境内に住んで世話をしていた管理人も他界し、宮司も大きな神宮に移って常駐しなくなった。それでも神社近くに住む人は時折境内を掃除したり、整備しながら守り続け、祭事には有志がボランティア活動に精を出し維持されてきている。

私がサラリーマンを卒業して地域の人達との交流を重ねて20年以上になったが、数年を経た頃に、約100世帯ほどの区画で町会長の役を引受けることになった。その頃は町会の活動も活発で、自治振興委員会も市の職員共々、様々な行事に参加し地域の協議会に出席したり、子ども会や祭りを応援することもしばしばあった。町会に亡くなった人ができれば、町会長は葬



桜の頃の八尾神社

世の中は技術開発が急進し、特にデジタル化がアナログ的生活様式を一変させてきた。隣近所の人との交流も、顔を合わせて会話することも鬱陶しく思う人が増え、通信機器を通じて生活をしたほうが利便性もよく、相手と顔を合わさず気楽だと思えるような時代が変わってきた。一方デジタル的生活に取り残された者は孤立化し、孤独に耐えなくてはならなくなって来た。物質的に豊かになっても精神的な不満が蓄積し不幸を呼ぶことになってきている。古代から国々や地域に住む人々は、環境に適した生き方をして特有の文化を築き継承してきた。時代と共に変化していても、生活の中で培って来た知恵が新しい文化を育んできた。

そうした文化は総じてアナログ的である。これに対し住む環境に関係なく経済効果や利便性を求める社会は、経済競争へ向かい一層デジタル化が激しさを増し、勝者と敗者が明らかになって止めようがなくなってきた。今や走り過ぎるデジタル文明は文化を呑み込んで、人々の生活を混乱させ、心を不安定化させることになってきている。人はお互いに信頼関係の中で生き、助け助けられながら日常生活を過ごしてきたものである。心の安らぎを求め季節の節目の行事に参加し、祭事には人々が集い交流をはかりながら、感謝の気持ちを伝え、時には身近で神頼りできる社寺を大切にしてきたものである。それが揺らぎ始めて心の病に侵されて、やがて人間不信から社会は崩壊しかねない懸念を私は感じている。

最近顔を合わさず、通信機器を利用して事を済ませることが当たり前になった。スマホを利用したSNSが世界中に広がり、悪質な情報を発信したり、他人を中傷、誹謗したりし、犯罪や事件が多発ははじめ、その規模が大きくなってきた。更に世界的に普及してきたAI(人工知能)技術は人間の頭脳の働きを超えた能力を持ち、アバターというような疑似人間を生み出して来た。優秀で行動力もある代替人間の出現によって、生身の人間の尊厳はどこかへ追いやられてしまう事態になってきたようである。科学技術の開発はほどほどにしないと、やがて人類は自滅するのではないかと案ずる昨今である。

昨年、日本人の子どもの出生数は73万人で過去最少で、一人の女性が生涯に出産する出生率は1.20となり、韓国は0.72と言うから人口減は甚だしい。男女共結婚しない人が増加しているのも要因だが、若い人たちの結婚に対する価値観や、他人との付き合い方が変わってきたからだと思う。少子化対策の国の政策はもっぱら目先の経済的支援を重視しているが、私は根本的に競争社会を見直し、「他人を見れば泥棒と思え」という荒んだ警戒心より、愛し愛される温かな住みよい人間関係と安心、安全な社会環境づくりを目指し、大都市集中型から地域文化の育成や教育を重視した施策を政治家に望む今日この頃である。

令和6年6月 記

注 ①「夏越の祭祀」の写真は昨年6月30日の撮影です。

②「桜の頃の八尾神社」は数年前に描いた油彩画で私の拙作です。



八尾神社の夜桜